

(2025年4月8日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎英子/委員長 池田浩子

今回は、2025年2月22-23日に行われた第54回日本慢性疼痛学会について神奈川歯科大学麻酔科学講座 歯科麻酔学分野の今泉うの先生に報告していただきます。

## 第54回日本慢性疼痛学会参加報告

神奈川歯科大学麻酔科学講座 歯科麻酔学分野 今泉うの

2025年2月22-23日に宮城県仙台市の中小企業活性化センターAERで行われた第54回日本慢性疼痛学会に参加した。日本慢性疼痛学会は1982年に研究会として発足し、現在会員数約750名である。会員の職種も医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、鍼灸師など多岐にわたっている。そのため、専門分野も麻酔科、心療内科、精神科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、東洋医学、看護学、歯科口腔外科などと幅広く、職種の垣根を越えて自由に慢性疼痛が検討される場となっている。本大会の大会長は、日本口腔顔面痛学会でも精神医学セミナー等でおなじみの仙台ペインクリニック院長の伊達 久先生で、「みんなで関わろう集学的治療」をテーマに開催された。参加人数も600名近くと、大変高い参加率で活発な意見交換が行われた。非常に充実したプログラムの一部をご報告したい。

**教育講演1：「患者さんとの協働意思決定を促進する対話のスタイル～MIを臨床活用するメリット～」**では、「医療スタッフのための動機づけ面接法」を執筆されている北田雅子先生（札幌学院大学人文学部）が、慢性疼痛患者は両価性（行動を変えたい気持ちと不安の共存）により、行動の有用性を理解しつつも行動変容につながりにくいのが特徴であると解説された。そのうえで、慢性疼痛患者にどのように動機づけ面接（MI）を行っていくかの提案がなされた。

**教育講演2：「口腔顔面痛～歯科医師からのメッセージ～」**は、日本口腔顔面痛学会理事長の小見山 道先生（日本大学松戸歯学部附属病院 口・顔・頭の痛み外来）により、口腔顔面痛についての解説、日本口腔顔面痛学会の活動が紹介された。歯科医師以外の参加者が多く、終わってから麻酔科の医師から「私達はこのような領域は全くわからないから勉強になったし、面白かった」と声をかけられた。我々が思っている以上に口腔顔面痛の知識を得たいと考えている医療者は多いと思われ、今後も積極的に情報提供の機会を設けるべきではないかと考えられた。



小見山先生の教育講演

認知行動療法で有名な堀越 勝先生（前 国立精神神経医療研究センター 認知行動療法センター）により、二つのワークショップが行われた。一つは「慢性痛の心理アセスメント（10分間認知行動療法）」、もう一つは「コミュニケーションスキル」である。認知行動療法（CBT）は慢性痛の治療ガイドラインにも登場するものの、日本の医療現場では活発に実施されていない。それはCBTがメンタルな問題をもつ患者さん専用という認識があるためである。実際は、CBTのような専門性の高い「ハードスキル」は、実際は患者ケアを行う土台となる基本的な対話スキルの「ソフトスキル」の上

に成り立っている。ソフトスキルはあらゆる診療科において有用なスキルである。このような認識のもと、「10分間 CBT」や「ソフトスキル」についての具体的な解説がなされた。集学的治療には、それぞれの分野の高度な知識だけでなく、すべての医療者が共通認識を持つことが重要であると考えられる。その意味でも、精神科以外の医療者には取り入れにくいと思われがちな介入法の情報がありやすく提供される貴重な機会であった。

痛覚変調性疼痛に関する二つの企画も行われた。

**教育講演 4 「痛覚変調性疼痛 update」:**「Nociplastic pain」が、痛みの第3のメカニズムを表す語として提唱されて8年、日本語訳として「痛覚変調性疼痛」が提案されて4年が経過したということである。加藤総夫先生(東京慈恵医科大学 痛み脳科学センター)による講演では、脳内の痛み体験システムが侵害受容や社会的なストレスなどの身体の状況を監視し、自律機能、内環境、情動、行動の最適化を図ることで生存可能性を最大化する、すなわち向生存的適応を担っているという脳中心的慢性痛理論について解説された。朝9時からの講演にも関わらずメイン会場は満席で、慢性疼痛に関わる医療者の関心の高さをうかがわせた。

**シンポジウム 3 「痛覚変調性疼痛の臨床」:**心療内科医の立場から水野泰行先生(関西医科大学 心療内科学講座・関西医科大学附属病院 ペインセンター)、理学療法士の立場から服部貴文先生(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)、公認心理師の立場から川居利有先生(公益財団法人がん研究会有明病院 腫瘍精神科)の3名が登壇された。このうち、服部先生の講演では、運動療法の慢性疼痛に対する有効性が報告されている中で、自験例から痛覚変調性疼痛の要素をもつ慢性腰痛患者においては運動誘発性鎮痛が生じにくいことを示された。痛覚変調性疼痛の治療に適した運動療法の確立が期待された。

**シンポジウム 5 「口腔顔面痛の会」**では、座長に村岡 渡先生(川崎市立井田病院 歯科口腔外科)と坂本英治先生(九州大学病院 顎口腔外科)、演者は坂本先生、河端和音先生(鶴見大学歯学部 歯科麻酔学講座)、私今泉の3名で難治性慢性口腔顔面痛の症例をそれぞれ紹介した。60分の枠の中ではディスカッションの時間も十分ではなかったが、歯科以外の参加者も熱心に聞いて下さり、難治性慢性口腔顔面痛について多職種の医療者に考えていただける貴重な機会であった。来年も「口腔顔面痛の会」は継続されるようなので、口腔顔面痛学会の先生方も参加していただけたらと思う。

このほかにも教育講演、シンポジウム、ワークショップ、ランチョンセミナー、スイーツセミナー、すべて口演の一般演題、市民公開講座など大変盛りだくさんの内容であった。3つの会場で行われ、現地開催のみでオンデマンド配信がないため、聴けなかった講演も多かったのは残念に思われた。



懇親会では宮城県の観光PRキャラクター  
むすび丸がお出迎え



懇親会で挨拶される伊達大会長

来年は、第55回大会が2026年2月27日（金）、28日（土）に、奈良県立医科大学附属病院ペインセンターの渡邊恵介先生を大会長に、ホテル日航奈良で開催される。JR奈良駅直結でアクセスも良い会場である。口腔顔面痛学会会員の皆様にもぜひご参加をお勧めする次第である。

---

### 【今泉うの先生のプロフィール】

#### 【略歴】

- 1996年 早稲田大学第一文学部史学科日本史学専修卒業  
2004年 鹿児島大学歯学部歯学科卒業  
2012年 神奈川歯科大学大学院歯学研究科修了（博士（歯学））  
2012年 神奈川歯科大学学生体管理医学講座麻酔科学医員  
埼玉医科大学国際医療センター麻酔科研修歯科医  
2013年 神奈川歯科大学麻酔科学講座助教  
2014年 神奈川歯科大学麻酔科学講座講師  
2017年 神奈川歯科大学附属病院麻酔科診療科准教授

#### 【主な所属学会・資格】

- 日本口腔顔面痛学会 暫定指導医・専門医・評議員  
日本歯科麻酔学会 専門医・代議員  
日本慢性疼痛学会 専門歯科医・理事  
日本蘇生学会 指導医  
日本疼痛漢方研究会 理事  
日本臨床モニター学会 評議員  
日本歯科医史学会 評議員 ほか



---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: [jsop-service@onebridge.co.jp](mailto:jsop-service@onebridge.co.jp)